

シルバー

松山

No.107
夏季号



設立35周年記念特集号

もくじ

- P 2 設立 35 周年記念式典
令和 4 年度 定時総会の開催
- P 3 設立 35 周年を迎えて 松山市長
理事長
- P 4・P 5 特集インタビュー
シルバー人材センター 人生 100 年時代の旗手たち
- P 6・P 7 シルバー人材センター 35 年のあゆみ
- P 8 令和 4 年度 定時総会の報告
- P 9 新旧役員の挨拶 / 理事会の動き
- P 10 おしごと拝見 / 剪定班員募集!
- P 11 わが町再発見 / 女性会員の会だより
- P 12 お知らせ / 編集後記



編集・発行

公益社団法人 松山市シルバー人材センター

所在地 松山市若草町 8-3

TEL / 0 8 9 - 9 3 3 - 7 3 7 3

FAX / 0 8 9 - 9 3 3 - 0 1 3 1

<http://m-silver.sakura.ne.jp>

e-mail : matuyamasc@sjc.ne.jp



設立35周年記念式典 令和4年度定時総会の開催

設立35周年記念式典及び令和4年度定時総会を6月6日(月)に松山市民会館中ホールで開催いたしました



一昨年度・昨年度と2年連続で新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の観点から、会員の健康と安全を第一に考え、委員の状況提出による開催としていたため、大人数が一堂に会する定時総会は3年ぶりの開催となりました。

会員141名が出席し、野志克仁松山市長、渡部克彦松山市議会議長をはじめ5名の来賓をお迎えし開催しました。

設立35周年記念式典を兼ねた式典の部では、北福縫子副理事長が開会を宣言し、新型コロナウイルスに伴う黙読による会員憲章唱和を行いました。

大塚理事長の挨拶に続き、正会員24名、企業・団体8団体、役員10名を設立35周年記念功勞



表彰スローガン

「危険の目 見る目 気づく目 予知する目」

者として表彰が行われました。また、事務局長代理・柳原祐二さんが35年永年勤続、正会員・矢野英輝さんが安全就業スローガンでそれぞれ表彰が行われました。

野志市長及び渡部市議会議長から祝辞をいただき、来賓の紹介、祝電披露に続いて、賛助会員の紹介の後、功勞者を代表して、正会員 松下晴一さんが謝



辞を述べました。
式典の最後には、設立35周年を迎えるにあたり、当センターの魅力を市内外に広くPRし、知名度及びイメージ向上を図るべく「シルバー応援大使」を新設し、お笑いコンビダウンタウン松本人志さんのお兄さん松本隆博さんに、初代応援大使として大塚理事長から委嘱状を手渡すセレモニーを行いました。



松山市長 野志 克仁

公益社団法人松山市シルバー人材センターが設立35周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

昭和62年に設立されて以来、高齢者の就労を支援し、働くことで生きがいを充実させ、社会に参加するよう尽力され、深く敬意を表します。

少子高齢化が急速に進み、労働力人口が減少する中、松山市シルバー人材センターでは、会員に就業機会を提供され、求人の開拓から相談、マッチングに至るまで就労を支援し、活躍の場を広げています。

また、デジタル社会から高齢者を誰一人取り残さないという思いで、インターネット教室などを開催し、デジタルスキルを

高め、「新しい生活様式」を考慮した就業機会も積極的に確保されています。

人生100年時代を迎え、65歳までの雇用確保義務に加え、70歳までの就業確保が企業の努力義務になり、高齢者が活躍する場は拡大しています。人生の先輩である高齢者の方々が培ってこられた知識や技術、豊かな経験などは、これからの松山市に必要です。今後多くの高齢者が元気に活躍し、貢献できる社会を実現するため、一層の努力添えをいただきますようお願いいたします。

結びに、松山市シルバー人材センターの今後ますますの御発展と、会員の皆様の御健勝と御活躍を心からお祈りし、お祝いの言葉とします。



設立 35 周年を迎えて



松山市シルバー人材センター
理事長 大塚 岩男

松山市シルバー人材センターは、昭和62年に設立し、この度、設立35周年の記念すべき節目の年を迎えることができました。

この間、ご利用いただいたお客様さまのご支援・ご協力と、松山市をはじめ、関係各機関のご指導のもと、会員の皆さまの積極的な事業参加と歴代役職員の熱意に支えられ、事業を拡充できましたことは、誠にありがとうございました。心から感謝とお礼を申し上げます。

しかしながら、長引く新型コロナウイルス感染症の影響で不透明な経済・雇用情勢が続く中、当センターでは第5次中・長期計画の下、会員の増強対策として、会員サービスの向上や新た

な生きがい就労の提供のほか、地域の高齢者がスマホやタブレットなどを安心して使えるようサポートする取組みを進めています。

また、設立35周年を迎えるにあたり、これらの取組みと並行して健全財政運営を指した第6次中・長期計画を策定することとし、更には、会員の高齢化を踏まえ、安全と健康管理の徹底を図ってまいりたいと存じます。

当センターでは、会員の皆さまの「経験・知識・希望」を活かした「働き方」と「行事」を充実することで、「集う喜び」「社会参加する楽しさ」を提供できるように、誠心誠意努めてまいります。

今後とも、ご利用いただくお客様さま、松山市並びに関係機関各位のご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。また、益々のご健勝とご活躍を祈念し、ご挨拶いたします。



正会員 山口 徹さん

山口さんは60歳まで県内大手企業の店舗開発や大型ショッピングセンターの支配人などを経て、退職を機に起業。時代が要請するライフ・シフトを実現し、まちづくりや人材育成に取り組んでいます。シルバー人材センターへは、知人の紹介で入会されました。

◆入会されてシルバー人材センターの印象は…

「シルバーのイメージといえば剪定や軽作業が多く、2000人もの会員がいるのに、もつといるんな人材がいるはずで、そうした人材の活用はどうなっているのかな」という疑問をもっていたそうです。「これからの60代の入会者をもっと様々な経験やスキルを持っている

それらを活かした仕事の場を創出する必要があるのでは」と印象を語ります。

◆これからのシルバーに期待すること

「会員はもつと多様な可能性を秘めていると思う。そうした人材がネットワークをつくって、やってみたいことを実現する。これからのシルバーは、もつと様々な就業機会の創出やイベント、ネットワークづくりに取り組んでほしい」と期待を寄せます。

「現役時代から携わりたいと考えていた観光振興に関わる事業もようやく具現化。産官学の連携により地域の活性化にも取り組みたいと、大学の外部講師としてゼミにも参加している。近い将来、シルバー人材センターとも連携し、高齢者が地域を支え、社会を支える仕組みを広げていきたい」と高齢者の可能性に希望を託しています。



正会員 石丸 和男さん

石丸さんは40年近くも旅行業に携わった旅のスペシャリスト。当センターの「きらりシルバー応援事業」の委員として活躍いただいた。2年前に入会。古希を迎え、時間的にもゆとりができたことから、懸案だった故郷の魅力の掘り起こしと観光事業化に乗り出しています。

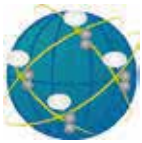
◆地元の魅力を伝えたくて

石丸さんは開口一番「時代が変わって旅行の実態が旅行業から観光業に変化。地域の歴史や食、観光スポットに光が当たると時代となった。その掘り起こしと発信を進めるのが我々シルバー世代の役割」と指摘します。「私の地元北条風早地域は伊予の豪族・河野氏の本拠地。河野氏が道後湯築城に移るまでの14

世紀前半までの拠点で、その跡に京都の東福寺に倣って創建された善応寺を中心に栄えた歴史あるところ。郷土の歴史を広く伝え、次世代に継承してもらいたい」と『河野ツーリズム』を提唱し具現化。その観光事業を展開するうえで、シルバー人材センターと連携、元気で時間もたっぷりある高齢者活用の可能性を模索しています。

◆人口減少時代のカギは高齢者の活用

「地域をよく知る高齢者は地域再発見の担い手。これからの観光業には欠かせない。観光業だけじゃなくて、あちこちで人材不足が叫ばれるが、元気でやる気のある高齢者をもつと活用すればある程度解決するのではないか」と。「私も古希を過ぎたが、瀬戸内の島々を結ぶクルージング『瀬戸内ルネッサンス』の実現に取り組みきたい」と果てない夢を語ります。





正会員 藤本 恵美子さん

藤本さんは1年前に中島に移住。間もなくシルバー人材センターに入会し、現在はヘルパーとして5人の利用者を支援。もともと母子保健に携わる保健婦として東京都下の保健所や住宅支援の経験があり、地域おこし協力隊員として地域づくりに取り組む夫とともに新たな土地での歩みを始められています。

◆移住されての感想は…

「青年海外協力隊員としてアフリカに滞在したこともあり、農業普及の研究員の夫は小笠原諸島の母島など転勤も多く新たな土地での暮らしには不安もあるが、興味を持って同道してきた」という藤本さん。「でも、今回の移住は娘たちや親・姉妹のいる関東から距離もあり、老

境での夫婦二人の離島暮らしにめずらしく不安が大きかった」と移住時をふり返ります。

◆不安を払しょく。古いへの備えを学ぶ場に

シルバーには島に来てしばらくしてから知り合いに勧められたの入会だったが、「シルバーで仕事をするので様々な不安が払しょくされ、また、先輩たちが介護について親切にやさしく教えてくれるので、孤立感から脱して元気になれた」と明るい表情で話します。「介護はこれまでの私の経験とは全く別な世界で、学ぶことが多い。週2回の支援だけれど、お年寄りを通じて自分の老いを受け入れ備える姿勢を学ばせてもらっています」と。高齢化率60%、後期高齢者も多い中島だが、「ここは自然が豊かで山菜採りや釣りなど楽しみも多い。ご近所との交流も増えた」と島とのご縁を深めています。



松山市シルバー人材センター

シルバー応援大使



松本 隆博さん

松本さんは兵庫県尼崎市出身。社会派の歌とトークで独自のジャンルをひらき、全国を舞台に活動。縁あって松山市に移住し3年目、地元放送局で活躍され、当センター行事にライブ出演をされるなど力強い応援隊としてご協力を頂き、今回の設立35周年記念でシルバー応援大使に任命されました。

◆シルバー応援大使に任命されましたが…

「僕のライブにお見えになっただけの方々はお年を召した方が非常に多い。そして共感してくださる。時には涙さえ流してくださる。ということは僕が紡ぐ言葉、僕が伝える思いがシルバー世代の代弁であったり、元気づける要素であったりしていることに気づいた。僕も還暦を過ぎてこれから歳を重ねていくわけで、加齢とともに感じる

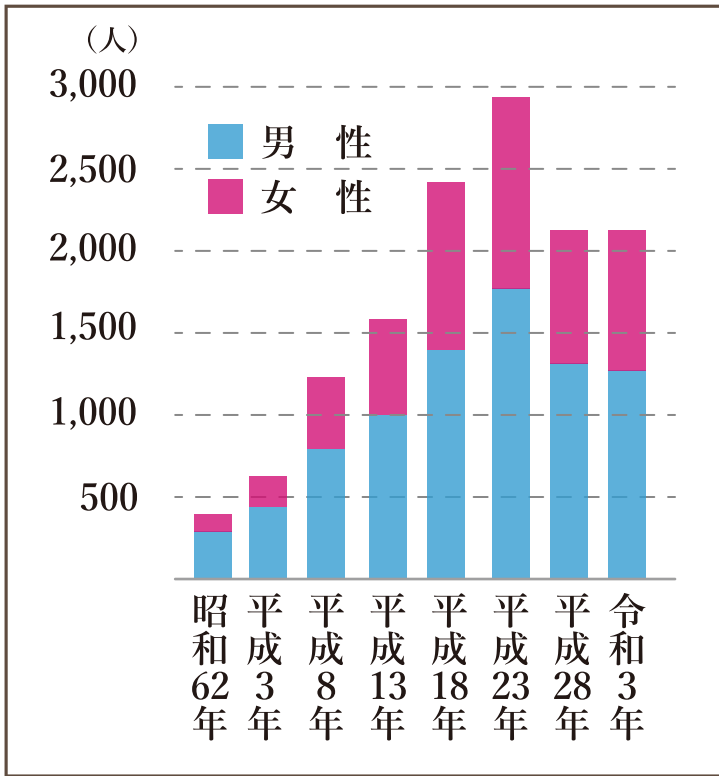
様々な思いを歌やトークにして届けることが自分の役割だと、改めて認識した」と語ります。

◆松本さんの活動は社会貢献につながっています

「僕の歌は、テーマが家族の絆だったり、親への感謝、地域の絆、生きる意味だったり、ある意味では僕だけのジャンル。だけど、それが今ちょっと立ち止まっている人や聴く人の共感をよび、結果的に子育て世代、不登校生や高齢世代への応援歌になっている。僕は中学生のころから詩を書いて歌にしてきたけど、恋愛を歌った歌はなく、はじめから今の路線。100歳になるまで歌い続けたいと思っている」と。「人生は言うほど捨てたものじゃない」、「人生は遊歩道、元気に楽しく歩こうよ」とメッセージを送ります。



【 男女別会員数の推移 】



※データは5年ごとの会員数

1. 会員数の推移
 一時は3000名を超える会員数となっていました。定年年齢の延伸と共に、減少傾向が
 続きました。ようやくわずかな
 がら増加傾向に転じてきまし
 た。

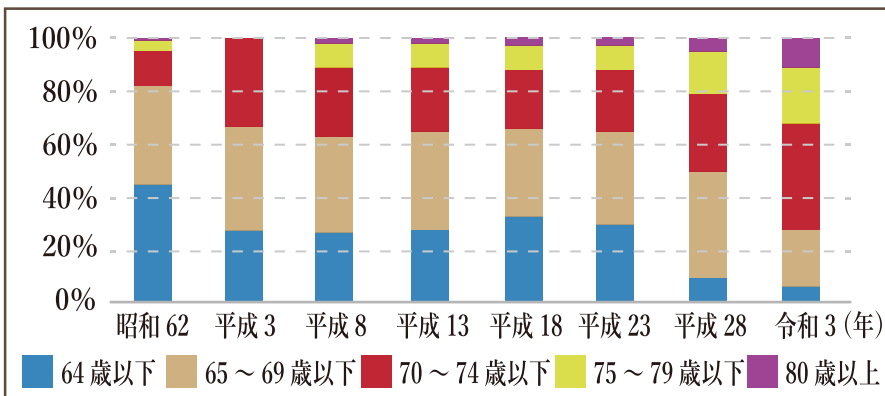


松山市シルバー人材センター

35年のあゆみ

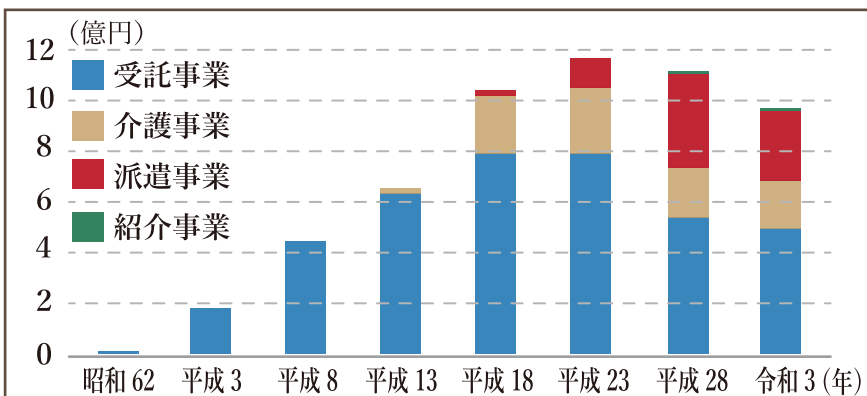
昭和62年に設立された当センターは今年度、設立35周年を迎えました。この間の歩みを数値で振り返ってみました。

【 年齢区分別比率の推移 】



2. 年齢区分(五歳区切り)別比率の推移
 年々平均年齢が上がり、73歳を超えてきました。7割近くが70歳以上になられています。で、安全や健康維持に係る取り組みが大切になっています。

【 契約金額の推移 】



3. 契約金額の推移
 事業実績は近年減少傾向となつています。これはコロナ禍の影響のほか、適正就業の観点から仕事を制限したことも要因の一つです。コロナ感染症が落ち着いたら、いち早く就業先を確保しなければなりません。

写真で辿る35周年

(設立30年～35年)

設立30周年からこれまでを振り返ると、新型コロナウイルス対策に取り組んだことが特に大きな出来事でした。

会員さんの就業に係る感染防止対策を最重要課題とし、何とか就業機会を維持する事に取り組みました。

コロナ禍でも、新規入会者確保に向けて会費を改正や、新た

に入会キャンペーンを展開し、減少傾向が続いていた会員数を増加に転じるための取り組みを実施しました。

また、コロナ禍により、世の中のデジタル化が進展する中で、当センターは、誰一人取り残さないデジタル化の推進に取り組んできた事も特徴であったと思います。

その他、女性会員会を中心としたサロン事業や、「生きがいデザイナーズ事業」に取り組む

と共に、国の「きらりシルバー応援事業」を活用し、地域の新たな観光資源の発掘に取り組み、地域限定の旅行業登録を行ったこと等がこの五年間の特徴ある取り組みでした。



▲ 入会キャンペーンでは出張入会説明会や「北海道の物産展」などを開催した



▲ まつちかタウンに開設された「DX-Silver」



▲ デジタル化推進の取り組みとして行った「デジタル活用支援講習会」



▲ 女性会員の活動拠点
シルバーサロン清水町



▲ 新たな観光資源の発掘に取り組んだ「きらりシルバー応援事業」



▲ コロナ対策として JKA 補助事業で贈られた非接触型体温計サーマルカメラを活用

令和4年度 定時総会の報告

式典に続き、第2部として令和4年度定時総会を開催、
 続く第3部では設立35周年記念ライブを実施

総会において、議事審議の部では、大塚理事長を議長に選任。令和3年度事業報告に関する議案など4議案と令和4年度事業計画及び収支予算についての報告が行われ、承認されました。

【議案】

第1号議案

令和3年度事業報告について

第2号議案

令和3年度収支決算について

第3号議案

理事12名の選任について

第4号議案

監事1名の選任について

【令和4年度定時総会報告】

第1号報告

令和4年度事業計画及び収支予算について

続いて、議事審議の部の後に、

第3回理事会を開催し、理事長、

副理事長、常務理事を選任。今

回の定時総会の終結をもって退

任する北福前副理事長、西山前

常務理事、家串前理事の3名を

代表して北福前副理事長が退任

の挨拶を述べた後、新体制の役

員一同の紹介を行いました。

最後に、初代シルバー応援大

使の松本隆博さんによる記念講

演ライブがあり、軽妙なトーク

と心に染みる歌で会場を盛り上

げていただき、岡副理事長の閉

会宣言により閉会しました。



功労者表彰

正会員

鹿村トモエ 竹村四郎

旭 茂樹 住家町子

大内良子 橘 良正

藤原昭子 中田ほづみ

友近章子 加藤秋則

松下晴一 細川寅雄

岸上和夫 岡田英子

大屋敷浩 藤本 昇

北谷ちさと 則内政子

上田シマ子 松尾利雄

池上秋男 眞屋芳夫

尾崎俊子 榎本郁文

企業・団体

永木町西ハイツ管理組合

(株) オートサービス・エム

増永食品(株)

(株) 愛媛CATV

愛媛日化サービス(株)

学校法人 愛媛学園

シブヤ精機(株)

(株) 言の葉まごころ弁当

松山中央店

役員

元理事 能田幸生

元理事 故山本 昶

元監事 河野啓一

前副理事長 土居園江

前理事 榎田マリ子

前監事 西本 守

前理事 河野尚典

前理事 中野村吉

前理事 保田安勝

現副理事長 北福縫子

勤続表彰(勤続35年)

事務局長代理

柳原祐二

安全就業スローガン表彰

正会員

矢野英輝



新旧役員の新顔

よろしくお願ひします

就任



副理事長
門田 聖子

令和4年度定時総会にて副理事長を拝命いたしました。

平成16年にキャリアコンサルタント・チャレンジ講座にて関わりを持たせていただいたのが最初のご縁です。若輩者ですが誠実に責務を全うする所存です。よろしくお願ひいたします。



常務理事兼事務局長
宇野 一生

人生100年時代にシルバー人材センターの役割が重要となりますので、地域に密着した多様な就業機会を提供し、高齢者

の社会参加や地域の活性化に貢献できるシルバー人材センターをめざし取り組んでまいります。



理事
宇野 哲朗

高齢者の一層の活躍が期待される中、会員の皆様が知識と経験を活かし、生涯現役社会の担い手として活躍しつづけることができるようシルバー人材センターと連携したいと考えています。

退任



副理事長
北福 縫子

3期6年の間、多くのセンター事業に関わらせていただき、感謝申し上げます。私は「人生100年時代」イコール「シルバー人材センターの本格出

番」と確信しています。センターの益々のご発展をお祈りいたします。



常務理事
西山 秀樹

高齢者が社会の支え手として活躍することへの期待感が高まる中、会員の皆様の多様な働き方へ対応するため様々な事業に取り組みでまいりました。今後、事業の更なる充実と発展をご祈念申し上げます。



理事
家串 正治

在任中は、貴重な経験をさせていただき、ありがとうございます。活動をお祈り申し上げます。また、生涯現役社会の拠点となり、市民に開かれたセンターとして発展することを願っています。

理事会の動き

令和4年度

第1回理事会を開催

令和4年度第1回理事会を5月19日(木)に開催し、第1号から第5号議案が審議され、了承されました。

◆第1号議案「令和3年度事業報告及び収支決算について」

◆第2号議案「令和4年度収支補正予算(案)について」

◆第3号議案「令和4年度定時総会に付議すべき議案について」

◆第4号議案「第6次中・長期計画の策定について」

◆第5号議案「諸規定の改正について」

4月末時点の会員数2115名(前年同月比123名増)となり、今後入会セミナーを再開し、会員拡大に傾注する必要性について役員一同共有しました。

おしごと拝見

剪定

当センターで対外的に最も人気があり、稼働率が高いのが「剪定作業」です。

高齢となつて庭木の管理が難しくなつたご家庭で、丁寧で親切なシルバー「剪定班」の仕事が歓迎されています。

剪定班の仕事と流れ

まず、依頼のあつた作業現場を会員自らが訪れ、見積もり・剪定作業を行います。剪定作業



を行う会員は剪定班に所属し、班長さんを中心に班単位で活動しています。現在剪定班に所属している会員は約90名、14の班が活動しています。

始めたきっかけはさまざま

班長さんの一人である、松下さんにお話しを伺いました。

松下さんは現在77歳、剪定班に所属して15年。現役時代は鉄道会社に勤務、定年後自宅の庭の剪定をしていたところ、たまにたま通りかかった近所に住む剪定班の会員から「一緒にしてみないか」と声を掛けられたそうです。「自宅の剪定しか経験のない私には難しいと思い、一度は断りました。しかし『講習だけでも受けてみないか』と再度誘われ講習を受講、剪定班に所属することになりました。初めは大変でしたが、先輩方と一緒に作業をしていくうちに、いつの間にか身に付いていました」。松下さんは、剪定班に所属後

4年目で班長。今では新人を育成する育成班長として活躍されています。

外での仕事で病気知らず

「作業をしていてつらいのは暑さ。最近は空調服で随分楽になりましたが、熱中症対策には特に気をつけています。楽しみは剪定班仲間との交流。最近はコロナで自粛してますが春は花見、夏はビアガーデン、冬は忘年会に新年会。皆で旅行にも行

きました。私が剪定班で長く続けてこられたのは、やはり剪定の仕事にやりがいがあること、そして、一番は健康のためです。剪定の仕事は体を動かします。汗をかきます。おかげで、現役時代は糖尿病と腰痛持ちだったのですが、すっかり良くなりました。家族も応援してくれています。」と笑顔で語ってくれました。

剪定班員募集！

未経験者歓迎！ “技術は一生もの！”

● 仕事内容 家庭の庭木の剪定作業

多数の剪定作業依頼で作業会員が不足しています。体力に自信のある方、外で身体を動かすのが好きな方、庭木に興味のある方は、ぜひお問合せください。

● 就業場所 松山市内全域

● 就業条件 健康でやる気のある方、移動手段のある方

● 問い合わせ ☎ 089-933-7373

業務課 担当 小川

わが町再発見

北条辻町

天気の良い朝、JR北条駅前広場に立ってみた。周辺に数軒の食堂を見かけたがとりあえず散策することにした。

駅から10分歩くと魚港に着く。ここから北に3分で明星川がある。暴れ神輿と呼ばれる北条祭りでは、この川で神輿落としと神輿みそぎの神事が行われるそうだ。どんな祭りか少し見てみたくなった。

川に沿って辻町の交差点まで歩くと「花へんろの町伊予北条へ…早坂暁の故郷」と書かれた看板



▲「花へんろの町伊予北条へ…早坂暁の故郷」と書かれた看板

を見つけた(写真)。北条出身の早坂作品は、体内被曝の問題を扱った「夢千代日記」をはじめ名作ドラマが沢山ある。花へんろでは「昭和とはどんな眺めぞ花へんろ」という句を詠んでいて、遍路道に面した商家を軸に激動の昭和時代に翻弄される庶民の生活が叙情豊かに描かれている。

早坂の生家「富屋勧商場」はこの看板横にあり、今は美味しいランチもある居酒屋になっている。川沿いを西に歩くと地元の小学生在が名付け親だという「花へんろ橋」がある。

渡船場から65歳以上は往復100円の運賃で、3分ほどの船旅を楽しめる鹿島へ足を延ばしてみる。ここは鹿の名所であり、



▲ 港近くになる石碑

キャンプ場や海水浴場、鹿島神社のほか、北条の町を一望できる展望台や撮影ポイントが多くある。港の近くには渥美清と早坂暁の碑がある(写真)。親友の二人はよく島にきて宿泊し、太田屋鹿島店では名物の鯛めしに舌鼓をうち島の時間を楽しんだそうだ。

駅前に戻り食事することにした。「盛まつ」という店を発見。ランチもやっている居酒屋で居心地のいい小さな店だ。店主お

勧めのしらす丼を注文(写真)、北条沖で獲れたしらすだそうで美味であった。居酒屋だけあり、夜メニューも充実しており、今度はアルコール込みで料理を頼みたい。

今回の散策はいい発見も多くあり、楽しい一日となった。



▲ おすすめの「しらす丼」

女性会員の会だより

令和4年度第1回女性会員活動活性化委員会開催

コロナで活動休止状態であった女性会員の会活動もようやく動き始めました。7月8日委員会を開催し、会員の活発な活動再開と居場所づくりをめざし、今年度事業の検討を行いました。

シルバーサロン清水町再開

コロナウイルスの変異株オミクロンの感染拡大のため1月18日より休館となっていたシルバーサロンが、5月23日より再開されました。7つの教室のほか14の倶楽部が今まで通り活動を開始。活気を取り戻しています。



お知らせ

**シニアの力を活かした
仕事提案企画スタート**

当センターではこのたび、会員や地域の高齢者を巻き込み、働きやすい仕事の形を介護事業所のご協力のもとに提案する企画をスタートさせました。

具体的には、現在、高齢者介護施設等の看護・介護職員が行っている業務のうち、シニアが潜在能力を活かしたり、無理なく手伝える業務を探し出し、シルバー人材センターにお任せいただくというご提案です。

子育てや家事育児、あるいは仕事経験の中で培った得意分野を人材不足でお困りの介護分野で発揮していただく試みです。



この新たな企画に参加してみませんか？
興味がある

方は、新企画の概要、仕組みなどを説明しますのでご連絡ください。

● 問い合わせ先

本部企画課 担当 矢野

☎ 089-933-7373

**安全・適正就業委員会の
注意喚起にご協力を**

令和4年5月25日に安全・適正就業委員会を開催しました。

会議では、今年度の4月から5月にかけての事故状況を報告。今年度は昨年度に比較して重篤事故が2件から5件に急増しており、事故の内容もヘルメットや安全帯の不着用により負傷する案件でした。

委員会では会員に対して、何らかの注意喚起を行う必要があるとの意見が出ました。

会員の皆さんには、今一度業務の安全対策の点検、再確認をさせていただき事故の発生防止に努めていただきますようお願いいたします。

お悔やみ申し上げます

※令和3年7月1日〜令和4年6月30日までの死亡による退会者

- | | |
|--------|-------|
| 窪田 久美子 | 利光 房男 |
| 安達 敏夫 | 高橋 悟 |
| 塩崎 米勝 | 原 一信 |
| 横山 節夫 | 加地 鉄雄 |
| 亀井 淳司 | 渡邊 笙子 |
| 西村 百合子 | 福岡 三郎 |
| 鶴久森 敏英 | 近藤 雛子 |
| 小池 清治 | |

(会員番号順で掲載)

健康一口メモ

熱中症にご用心！



マスク着用時は激しい運動を避け、こまめに水分補給を。
人との距離が2メートル以上ある時はマスクを外す工夫も必要。

編集後記

暑さの続く中、設立35周年記念特集号をお届けします。

35年という歳月に培われてシルバー人材センターは進化しつつ大きな転換期を迎えています。30周年以降の5年間は内外共に実に騒然とした世相で、ここ3年はコロナで就業機会の減少だけでなく、社会全体が閉塞感に覆われました。加えて西方では今なお無謀な侵略と戦いが続き、一見平和な私たちの暮らしも様々にその影響を受けています。

健康や平和の有難さを痛感しながら、会員一同次なる設立40周年をめざして就業においても社会活動においても「生涯現役」で歩み続けることを祈念してやみません。(D)

編集委員

- 土居園江 梶原常晴
桑村啓三 赤尾真由美